

掘立柱建物は方形区画内に 15 棟検出されている。全体の須恵器の胎土比率は、A 群 57%、B 群 7%、C 群 36% である。本遺跡の方が A・B 群が少なく C 群の割合がやや多い。地理的には村下遺跡が、新津丘陵、笛神丘陵窯跡群から約 8km、本遺跡は約 6km とわずかな差である。阿賀北地域の 8 世紀～9 世紀の拠点集落である聖籠町山三賀 II 遺跡〔坂井前掲〕では、時期が古いほど A 群の割合が高いので、村下遺跡と本遺跡の差も地理的な差より成立時期が早い村下遺跡のほうが A 群の割合が高く出ているのであろう。器種別の割合は、村下遺跡では具体的な数値は示されていないが、須恵器の杯類が大半で貯蔵具が数点、土師器の甕類が多くそのほかの器種は皆無ということで、本遺跡と同様あるいは食膳具が更に高い数値である可能性がある。これは、村下遺跡が方形区画内に掘立柱建物のみで構成される、より公的な性格を持つた遺跡であることと、本遺跡が竪穴建物と掘立柱建物で構成される一般集落であるということの差であろう。

## B 西古志型煮炊具について

本遺跡では西古志型煮炊具といわれる長甕が 5 個体 (35・50・57・68・74) 出土している。ここでは西古志型煮炊具の特徴と流通について確認しておきたい。古志郡・蒲原郡・沼垂郡周辺で西古志型煮炊具が出土している主な遺跡は第 13 表の通りである。

西古志型煮炊具の特徴は、器種は小甕、長甕、鍋があり、非口クロ成形と見られる。胎土は西古志窯跡群の須恵器とほぼ同じで比較的精良で砂質が強い。小甕は丸底のものと平底のものがあり、体部外面の縦方向のハケメ後、体部下半にヘラケズリを行う。内面は横方向にハケメを行なう。口縁部は「く」の字に短く外反し、端部は丸く収めるもの、面を作るものなどがある。長甕は丸底のものが多い。体部外面は縦方向のハケメ後、縦方向のヘラケズリを行うものもある。内面は横方向のハケメを行う。口縁部の形態は小甕と同じである。鍋は資料が少なく不明瞭の部分もあるが、口縁部は強く「く」の字に屈曲し、端部は上に摘ままれる。底部は丸底と見られ、体部外面は横方向のハケメ後、ヘラケズリされる。ほかの産地の煮炊具との識別は容易であろう。

西古志型煮炊具は中越地域の島崎川流域（三島郡出雲崎町・長岡市和島地区等）で多く確認でき、西川流域（燕市・新潟市西蒲区・南区等）でも一定量存在する〔春日 2000〕。阿賀北地域では、聖籠町山三賀 II 遺跡で出土しており現時点では最北と見られる。須恵器の生産は律令期には一郡一窯（的）体制といわれているが、消費地は同一郡内を超えて隣接する郡に及ぶことが明らかになっており、地理的距離が影響しているも

器種名	残存率	(%)	破片数	(%)
無台 杯	1039	(37.8)	296	(35.1)
有台 杯	226	(8.2)	24	(2.8)
杯 蓋	170	(6.2)	45	(5.3)
盤	8	(0.3)	2	(0.2)
壺・瓶類	25	(0.9)	3	(0.4)
横 瓶	13	(0.5)	2	(0.2)
甕	3	(0.1)	1	(0.1)
無台 梱	254	(9.2)	74	(8.8)
小 甕	612	(22.3)	247	(29.3)
長 甕	353	(12.9)	141	(16.7)
鍋	36	(1.3)	8	(1.0)
鉢	7	(0.3)	1	(0.1)
合 計	2746	100	844	100

第 8 表 VI 層口縁部残存率集計 (x / 36)

遺構名	無台杯	有台杯	杯蓋	無台楕	小甕	長甕	鍋
SI2006				36	22	22	4
SI2088					11	27	8
SI2110		36			2	1	
SI2258	2	25	2		16	32	

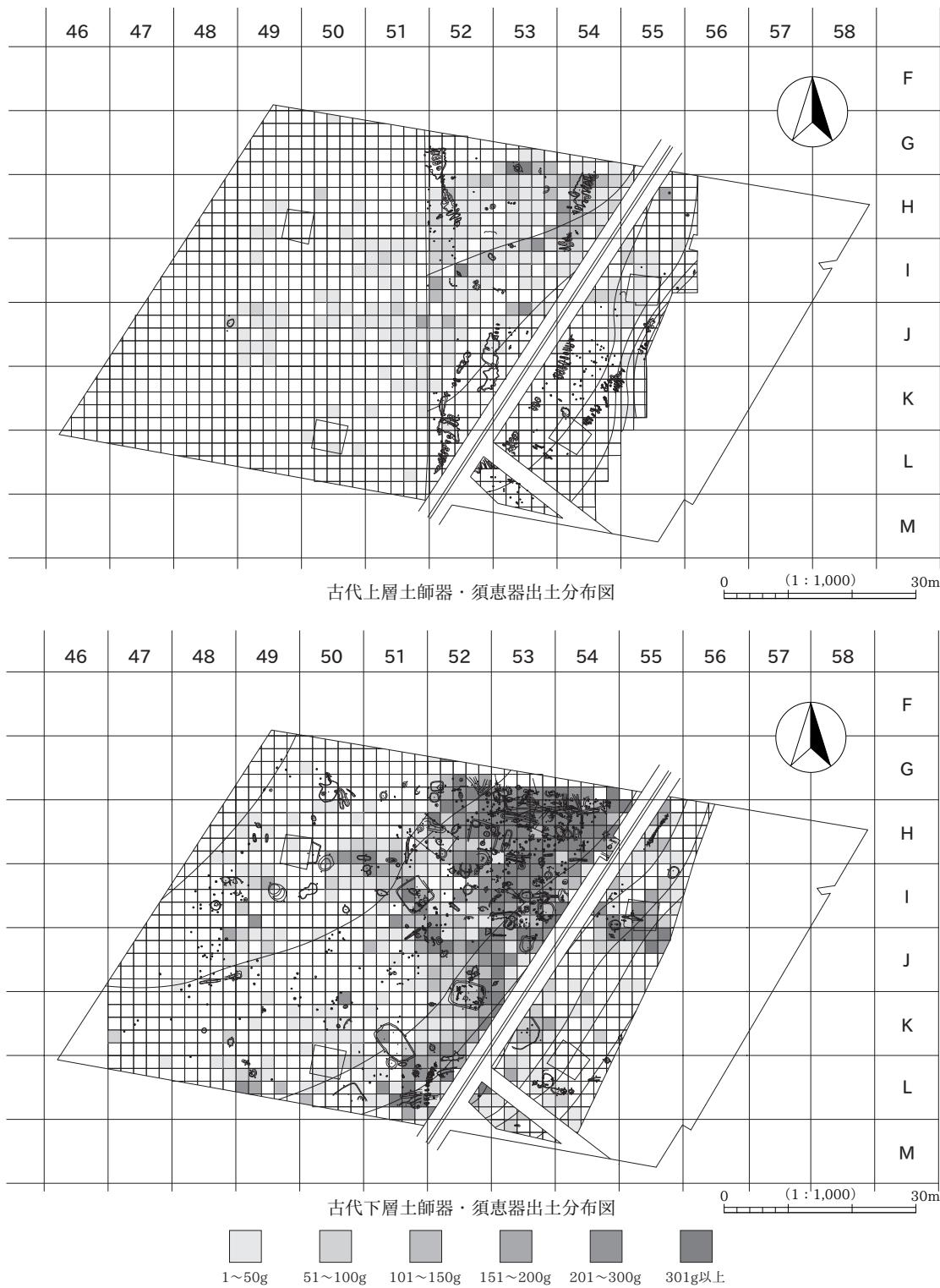
第 9 表 竪穴建物器種構成 (x / 36)

遺構名	食膳具	煮炊具	貯蔵具
SI2006	36	48	0
SI2088	0	46	0
SI2110	36	3	0
SI2258	29	48	0

第 10 表 竪穴建物機能別構成比 (%)

遺跡名 (春日編年)	胎土 A 群	胎土 B 群	胎土 C 群	その他
村下遺跡 (II 2 ~ IV 3 期)	57.0	7.0	36.0	
柄目木遺跡 (IV 1 ~ V 期)	51.7	0.3	48.0	

第 11 表 須恵器の産地割合 (%)



第 18 図 古代土師器・須恵器出土分布図

遺物名	古代上層土師器(g)	古代上層須恵器(g)	古代下層土師器(g)	古代下層須恵器(g)
遺構内出土	4949.0	217.0	9622.8	6389.4
遺構外出土	6985.3	1448.5	74483.5	11058.5
合計	11934.3	1665.5	84106.3	17447.9

第 12 表 古代土師器・須恵器重量表

のと考えられる〔春日前掲 2000〕。土師器についても同様と見られ、山三賀Ⅱ遺跡出土資料については、島崎川流域で生産されたものが、西川・信濃川・阿賀野川河口付近を経て、もたらされた可能性が指摘されている〔春日 2004〕。本遺跡例も同様と考えられ、阿賀野川の河口付近からは約 18km 上流に位置する。西古志地域からは約 50km の距離である。阿賀野市内からは本遺跡の出土例のみで近接する村下遺跡では出土していない。本遺跡の出土例は古代の内水面交通の実態を知る手掛かりとなろう。

これまで阿賀野市内の古代の遺跡は笛神地区を除くと調査例が少なく、笛神丘陵の一大窯跡群を擁する沼垂郡内とは言え、様相が不明の地域であった。しかし、今回の阿賀野バイパス関係の発掘調査で本遺跡や山口遺跡〔荒谷ほか 2010〕、市で調査を行った村下遺跡、三辺稻荷遺跡〔古澤 2008〕などの発掘調査から、徐々に明らかになってくるものと期待される。

番号	遺跡名	所在地	出典
1	八幡林遺跡	長岡市（旧和島村）	『和島村文化財調査報告書第 2 集八幡林遺跡』1993 和島村教育委員会
2	下ノ西遺跡	長岡市（旧和島村）	『和島村文化財調査報告書第 6 集下ノ西遺跡』1998 和島村教育委員会
3	扇田製鉄遺跡	長岡市（旧与板町）	『新潟考古』第 1 号 1990 新潟県考古学会
4	番場遺跡	出雲崎町	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 48 集番場遺跡』1987 新潟県教育委員会
5	寺前遺跡	出雲崎町	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 189 集寺前遺跡』2008 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
6	梯子谷窯跡	出雲崎町	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 104 集梯子谷窯跡』2001 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
7	上田遺跡	見附市	『見附市埋蔵文化財調査報告第 20 上田遺跡』2005 見附市教育委員会
8	江添 C 遺跡	燕市（旧吉田町）	『江添 C 遺跡・江添 D 遺跡』2002 吉田町教育委員会・日本芸術文化文化財総合研究所
9	北小脇遺跡	燕市（旧吉田町）	『吉田町文化財調査第 9 集北小脇遺跡・天神堂城跡・館屋敷遺跡・大橋遺跡』2002 吉田町教育委員会
10	野沖遺跡	燕市（旧吉田町）	『吉田町史資料編 1 考古・古代・中世』2000 吉田町
11	中入溝遺跡	燕市（旧吉田町）	『吉田町史資料編 1 考古・古代・中世』2000 吉田町
12	馬越遺跡	加茂市	『加茂市文化財調査報告（14）馬越遺跡』2005 加茂市教育委員会
13	下稻場遺跡	新潟市（旧卷町）	『FIELD NOTE』3・4・5・6・7、1984・1986・1988・1990・1995 新潟大学考古学研究部、『卷町史』資料編 1 1994 卷町
14	茶院遺跡	新潟市（旧中之口村）	『新潟県埋蔵文化財調査報告第 5 茶院遺跡』1976 新潟県教育委員会
15	的場遺跡	新潟市	『新潟市の場遺跡』1993 新潟市教育委員会
16	緒立遺跡 C	新潟市（旧黒崎町）	『緒立 C 遺跡発掘調査報告書』1994 黒崎町教育委員会
17	釈迦堂遺跡	新潟市（旧黒崎町）	『新潟県埋蔵文化財調査報告第 100 集釈迦堂遺跡』2000 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
18	山三賀Ⅱ遺跡	北蒲原郡聖籠町	『新潟県埋蔵文化財調査報告第 53 集山三賀Ⅱ遺跡』1989 新潟県教育委員会
19	柄目木遺跡	阿賀野市	本報告

第 13 表 西古志型煮炊具出土遺跡